

学校教育目標	みんなでつくる わくわくがあふれる野田小学校 ～すべての子どもが、自ら、自分らしく学び、生き生きと育つ学校～
目指す学校像	自らともに 挑戦する

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童における学習の基礎的・基本的事項の定着及び「自ら学ぶ」授業の創造 2 安心・安全な学校づくりに自ら取り組む児童の育成と教育相談体制の充実 3 学校・家庭・地域が連携して「学校教育目標」の具現化に向けた協働体制の確立 4 安心・安全を基盤とした教育環境の整備 5 Well-Beingの実現に向けた業務改善の推進と教職員の資質・能力の向上を図る研修の充実
------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に
関する取組

子どもの発達や
心をサポートに
関する取組

地域とともに
学校づくりに
関する取組

教育環境の
整備に
関する取組

教職員の
キャリア形成に
関する取組

学 校 自 己 評 価 年 度 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							実施日令和8年2月12日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p>●子どもを主題にした教育活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の児童については、豊かな自然環境の中で、子どもらしさにあふれ、他学年の児童どうしで仲よく遊んだり、関わり合いをもったりできる子どもが多い。 学習面においては、与えられた課題については積極的に取り組める子は多いが、自ら課題を見出し、試行錯誤しながら解決に向けて取り組む面については課題が見られる。 学習の基礎・基本の定着については、ICTを有効活用しながら、個に応じた指導・支援を行っていくことが必要である。 児童が「教わる」授業形態から児童が「自ら学ぶ」授業への改善を継続していく必要がある。 	<p>・児童の基礎的・基本的事項の定着</p>	<p>・基礎学力の定着に向け、(国語)詩の暗唱チャレンジ、スピーチ発表、(算数)2分間チャレンジ、を実施する。</p> <p>・月末に各取組を振り返り、改善を図る。</p> <p>・適化の中に「自ら学ぶ」機会を設け、個別最適化した学びを具現化する授業を創造する。</p>	<p>・月1回の暗唱チャレンジ朝会で、毎回1篇以上達成の児童が80%以上になったか。</p> <p>・2分間チャレンジについて、90%の児童が自己ベストを更新できたか。</p> <p>・学校評価(児童)「自分で計画を立てて学習に取り組んでいる」の肯定的回答が90%以上になったか。</p>	<p>・「暗唱チャレンジ」は、目標達成の児童が81%となった。</p> <p>・「算数2分間チャレンジ」は、目標達成の児童が100%となった。</p> <p>・「自分で計画を立てて学習に取り組んでいる」について、児童の肯定的回答88%となった。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 各取組について、達成ができていない児童とできていない児童の差があり、達成させるための手立ての工夫改善が必要である。 自己学習についての必要性を意識させるとともに、学習の中で、達成感を味わわせる機会の創出をしていく。 	<p>・学習に関しては、A1技術の向上に伴い、子どもたちの学ぶ姿が大きく変わっていきつつあるという考えられる。その一方で学びの根柢としての「書く力」を伸ばさざるも必要であると考え、</p> <p>・「考える力」の育成も必要であり、インプットした学びをアウトプットできる場を創出していくことも重要である。</p> <p>・個に応じた学習支援については、SAを積極的に活用し、取り残す児童のない学習環境や指導の維持を望む。</p>
2	<p>●「喜んで登校し満足して下校」できる学校・学校の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員は、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、個に応じた指導や支援を行っている。 教育相談や生徒指導に係る事案に対しては、全教職員が自事として捉え、組織的に支援・相談していく体制や仕組み作りを、組織的に行っていく必要がある。 校内やクラスでの解決すべき課題について、子どもたちがその課題や問題について、自事として捉え、解決に向け自ら行動する力を育むことが課題である。 	<p>・安心・安全な学校・教職員の育成</p>	<p>・「安心・安全で楽しい学校づくり」の構築に向け、学校行事や児童生活、学級活動等の取組を通して、児童自身が主体的に取り組む機会を創造し、課題の解決に取り組めるようにする。</p> <p>・一人ひとりに寄り添った、生徒指導・教育相談体制の充実</p> <p>・スクールダッシュボード「おはようメーター」を活用して、児童の状況を把握し、対応するときに記録を蓄積して支援に結び付けていく。</p>	<p>・学校評価(児童)「学校生活や登下校で安全のルールを守っています」の肯定的回答が95%以上になったか。</p> <p>・学校評価(保護者)「野田小の子は、学校における安全や交通安全を考えて行動している」の肯定的回答が90%以上になったか。</p> <p>・学校評価(児童)「困った時に先生やおうちの人にお話ししています」の肯定的回答が90%以上になったか。</p> <p>・スクールダッシュボードを活用し、児童の状況を把握し、適切な対応をすることができたか。</p>	<p>・「学校生活や登下校で安全のルールを守っています」について、児童の肯定的な回答が95%となった。</p> <p>・保護者の安全についての肯定的回答については97%となり、安全に関する取組の成果として捉えられる。</p> <p>・質問項目にSC、SSWを入れ、更新したため、児童の肯定的回答が76% (SCは89%) となった。</p> <p>・おはようメーターの活用により児童の様子を把握、対応しやすい環境が醸成できた。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校の取組に一定の効果が出てきている。安全に対する意識の向上は今後も機会を生かして継続していく。 次年度も継続した取り組みと地域の協働体制の輪を広げられるようにする。 	<p>・子どもたちの登下校の安全確保については、様々な取組を通して、三者の意識の向上につなげてきている。今後はさらに自治会の掲示板等、啓発範囲を広げていくとよいのではないかと</p> <p>・昨今、SNSによるいじめや犯罪被害等が増えている。この状況を家庭・学校がしっかりと把握し、対応することも重要である。</p> <p>・SNSの安全な利用方法については、低学年のうちからの「安全教室」等を活用し、各学年に適した指導の充実が必要である。</p>
3	<p>●学校運営協議会、PTAと一体となった学校経営の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校での取り組みについては、「学校だより」「学校だより」ブログ等を活用し、家庭や地域に向けての情報発信を積極的に行うことができている。 学校・家庭・地域が一体となり、子どもたちの教育活動を行うことができるよう、学校教育目標「みんなで作る わくわくがあふれる野田小学校」をスローガンに推進している。 地域の人材が高齢化とともに縮小していく傾向があり、「地域とともにある学校づくり」に向けた地域人材の登用や活用を積極的に行う必要がある。 	<p>・学校、家庭、地域が連携した教育活動の実施</p>	<p>・家庭、地域に向け、学校安心メールでは、的確で迅速な情報の発信を行い、学校WEBページやスクリール配信などでは定期的に情報更新を行う。</p> <p>・野田小の代表が学校運営協議会に参加し、野田小の課題と解決に向けた取組に向け発表等を行う。</p>	<p>・教職員が、家庭や地域、関係者の職員等と関わり合う機会や関係づくりができたか。</p> <p>・学校評価において、学校からの情報発信に係る項目の肯定的回答の割合が増えているか。</p> <p>・学校の課題の解決に向け、各家庭への啓発や協力依頼について、PTAと協議し、協働することができたか。</p> <p>・交通安全あいさつ運動、標語の募集、啓発ポスターの作成・学校間での協働、地域との協力体制の醸成、保護者と協力等、今後も発展させていく。</p>	<p>・家庭や地域に向けての情報発信や、関わり合う機会の創出については、学校だより等の通信、学校ブログ等で定期的に発信している。また、学校行事や授業支援を通して保護者参画の機会を積極的に創出することができた。</p> <p>・情報発信に関する評価については、保護者の肯定的回答100%であった。</p> <p>・三者協働体制の構築は概ね達成できている。</p> <p>・交通安全あいさつ運動、標語の募集、啓発ポスターの作成・学校間での協働、地域との協力体制の醸成、保護者と協力等、今後も発展させていく。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後学校からの情報を積極的に配信していく。 学校の取組を積極的に発信していくとともに、定期的にPTAや、運営委員等と情報共有や情報収集を行う。 	<p>・学校からの情報発信は、学校や子どもたちの様子を知らずで大変重要なものである。今後も継続して行いたい。</p> <p>・「あいさつ運動」「交通安全運動」等の異校種間での交流や目的意識をもった取組は、子どもたち自身の、学校や地域に対する愛着や、意識の向上にもつながってほしい。</p> <p>・野田地帯は母校を本校とする人材が多いので、自治会や地元事業者など、声を掛けて協力を呼び掛けてほしいと思う。</p>
4	<p>●安全、清潔、静謐な教育環境の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内の安全な環境の確保と維持については、廊下や階段などに不要なものは置かないことの徹底が継続されており、児童が落ち着いて学習に取り組むことができる環境が構築されている。 清掃活動については、児童数が少なく、校内各所で手が回りきれない。清掃用具等を充実させ、少ない人数でも効率よく清掃活動ができるようにすることが課題である。 	<p>・教育環境の整備・充実による、安心・安全な教育環境の実現</p>	<p>・整備された環境を維持するための清掃活動や啓発の方法について環境委員会と連携し、見直しや改善を図る。</p> <p>・教材教具の充実に向け、全職員による備品等の点検・整備作業を通して、学校環境を整備された状況を実現できたか。</p>	<p>・学校評価(保護者)「教室や特別教室の清掃が行き届いている。教室等の掲示物や学校の施設・設備が整備されている」の肯定的回答が95%以上となったか。</p> <p>・備品の点検・整備作業を通して、学校環境が整備された状況を実現できたか。</p> <p>・学校評価(児童)「仕事や掃除などを一生懸命にしています」の肯定的回答が95%以上になったか。</p> <p>・清掃用具の補充整備等、充実できたか。</p>	<p>・学校評価の整備に関する評価の肯定的回答は91%となっており、概ね実現できている。</p> <p>・小規模の修繕については逐次改善を進め、安全な環境の維持に努めることができた。</p> <p>・評価項目についての児童の肯定的回答が80%となり、清掃活動については課題である。清掃活動の手立てについて研究を進める必要がある。</p> <p>・清掃用具の充実も進んでいる。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価から浮き彫りになった課題を踏まえ、及ばない部分について、ロボット掃除機を購入して活用するなど、児童や教具の充実と整備を進め、学習効率の向上を進めていく。 	<p>・清掃場所については、マンパワーの及ばない部分について、ロボット掃除機を購入して活用するなど、児童や教具の充実と整備を進め、学習効率の向上を進めていく。</p> <p>・学校の整備について、雨漏りなど、長年要望をしているにも拘らず改善ができていない場所がある。子どもたちの学びの環境として適切にいくよう教育委員会にも一層の働き掛けをお願いしたい。</p>
5	<p>●「喜んで出勤し、満足して退勤」する教職員組織の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事や校内研修等に対する教職員の参画意識は大変高く、同じベクトルで物事を進める力があり、また、研修の効果も高い。 学校課題研修等を通して、子どもたち一人ひとりが生き生きと学ぶための手立てについて実践と共有が図られてきた。 小規模校であるため、校務分掌等、教職員一人ひとりの業務に係る負担が大きい。 	<p>・業務改善の推進と同僚性の向上</p>	<p>・「野田小ググジョブ推進プロジェクト」の充実を推進する。</p> <p>・業務改善について教職員自身が当事者として考え、「働き甲斐」を感じる職場環境をつくる。</p>	<p>・学校行事等については、業務改善の本質を踏まえたい見直しや改善ができたか。</p> <p>・教職員が「働き甲斐」を感じて職務を遂行できる職場になっているか。</p>	<p>・取組については概ね達成できている。(運動会、持久走記録会、なかよし下校、会議等の時間短縮、年次休暇の積極的取得等)</p> <p>・働き甲斐については、人事異動調査満足度において回答者の7.5%が満足と回答</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や教職員の業務の精選等、業務改善の推進を継続し、授業づくりや研修等の時間の確保を進めていく。 教職員による業務改善のための提案についても引き続き行っていく。 	<p>・学校の働き甲斐がもたらされる職場環境の醸成を今後も推進してほしい。</p> <p>・教職員の研修については、法に定められていることもあるが、目の前にいる子どもたちの学びの充実に向けて、先生が山沢の知見を学び取る大切な機会となるので、積極的に進めてほしい。</p> <p>・一人1授業の継続と研修効率を高めるための方策の構築</p>
		<p>・教職員の資質能力の向上に向けた研修の充実</p>	<p>・「キャリアナビ」と研修受講講座を活用した対話に基づく受講奨励を行い、自身の学びを校内で共有する機会と場を設ける。</p> <p>・校内研修を通して、教職員が「やってよかった」と実感できる研究推進。</p>	<p>・全教職員が、自らの課題の解決や、スキルアップを図るための研修を受講し、学んだことを教育活動にアウトプットしたり、共有したりすることができたか。</p> <p>・研修において、教職員が主体的に学ぶことができたか。</p>	<p>・市教育研究会体育科の授業実践とて研修を推進</p> <p>・校長が講師となり園園工作の授業づくりのための研修を実施</p> <p>・教職員が、自身のスキルアップを目指し、教職員研修に主体的に参加した。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリアナビ」や研修受講講座に基づいた教職員のスキル向上に向けた研修の受講を推進する。 	